

スタディ・メイト研修会

7月11日（金）に、スタディ・メイト研修会を開催しました。富山県総合教育センター 教育相談部 研修主事 惣万美由紀先生・北川裕佳子先生を講師にお招きし、「特別な支援が必要な子供たちへのよりよい支援のために～担任等との連携について～」と題してご講話いただきました。

指導講話では、読みの困難さ、聞くことの困難さ、注目・注視の困難さの3つを疑似体験しました。疑似体験を通し、「周りが分かっているのに自分だけ分かっていない」「『まだ分からぬ』と言われ傷つく」という子供の不安な気持ちを想像しました。子供が感じている困難さを考えることの大切さ、身近な支援者が気付くことで救われる子供がいることを学びました。

また、「成功体験が積めるよう関わる」「穏やかな口調で話す」「気持ちを共感的に受け止める」「どこまですれば終わるのかを示し見通しがもてるようになる」「視覚的な手掛けかりを提示して伝える」など、特別な配慮を必要とする子供への支援について、改めて確認しました。

講話後半には、担任等との連携についてお話をいただきました。一人一人に応じた適切な支援、「できる」が実感できる配慮を行うためにも、支援が必要な場面はいつか、どう支援するか、担任と子供との約束事は何かなどを担任と共有することや、「支援日誌」の有効的な活用についてご教授いただきました。

グループでの意見交換では、いくつかのテーマに分かれ、悩みを共有したり、支援方法について意見を出し合ったりしました。グループで話し合うことで、各校の情報交換も自然に行われました。また、子供の行動の背景を考えるなど、様々な意見が飛び交いました。



指導講話



指導講話 ペアで意見交換



グループで意見交換

受講者の感想

とても良い運営だった。話し合いも隣の人とならたくさんできだし、ニーズに応じた班編成も良かった。反省も、自己内でさせるのが本当によかった。合理的な運営で素晴らしいと感じた。
テーマについて話し合うことが出来て有益だった。
自分の悩みも打ち明けてみて、自分のやり方が間違ってなかつたと分かり安心した。同時に同じ学校内のスタディ・メイトの人とも意見交換出来る場があればと感じた。日々忙しくなかなか時間が取れないので。他の学校の話を聞いてみて、自分の悩みよりもっと大変だということも分かった。
再認識したことを現場で実践しようと思う。ありがとうございました。
意見交換では、同感の意見や試してみようかなと思う意見もあり心が楽になった。ありがとうございました。
学校で忙しくしていると、基本的なことを忘れるがちになっていたので、先生方や他のメイトのお話を聞いて、また気持ちを新たに頑張ろうと思った。
話し合いタイムが多くなりよかったです。
前回以上に、より現場状況に則した内容
いろいろな特性をもつ子供の困り感、その対応について詳しく学べてよい機会だった。
唾をはく、人を叩く蹴る、人に物をなげつける場合も無視するのは安全確保や被害者の心情を考えるとどうかと思いました。
今回、始めに学校ごとに分かれて着席していたことが良かったです。学校で顔を合わせても時間に追われていて話しなどあまりできない。同じグループになることで、日頃気になっていることなど話せたので良かった。欲を言えばもう少し同じ学校の人と意見交換する時間があればよかったです。
初めに講話、その後テーマごとの支援方法の意見交換という、今回のような研修方法は、とてもやりやすかったです。ありがとうございました。
いろんな人の話を聞いたり自分の考えを話したりすることで、今悩んでいたことや思っていたことを再認識でき、よかったです。
惣万先生や北川先生の講演は大変勉強になった。読み、注目注視、聞くことの困難さを疑似体験し、当事者の気持ちがよく理解できた。あと、スタディ・メイト同士の意見交換がとても良かった。私自身の困っていることを相談し、惣万先生やベテランスタディ・メイトさんたちに有意義なアドバイスをいただけた。本当にありがとうございました。
いろいろな方と情報交換ができよかったです。子供にとって必要な支援ができるように、子供との関係づくりを大切にしたいと思った。